

一般質問発言通告要旨

通告者 11番 荒木田 俊一

1. 平成30年度の予算編成を終えて市長3期目にかける思いは。

- (1) 取り組みの重点事項は。
- (2) 2期8年間の実績についての住民の評価は高いと思えないが、自己評価は。
- (3) 企業誘致のための造成地の活用について、いつ目途が立つのか。
- (4) 多額の税金を投入し改築した、角館病院は住民の期待に込んでいるのか。
- (5) 「合併後の地域の壁が、未だにある」と思うがその対応はいかに。

2. 市が賃借等で、利用している民有地について。

- (1) 利用している民有地の総面積は。
- (2) 利用目的別の内訳は。
- (3) 有償、無償の比率と支払い金額は。
- (4) 財政に与える影響をどう捉えているのか。
- (5) 今後についての考えは。

3. 職員の年次有給休暇について。

- (1) 平成28年の取得状況について、どう捉えているのか
- (2) 各種行事やイベントが多くて、取得できないのか。
- (3) 県内でも最低の取得率と思うが、この実態を、改善する取り組みはあるのか。
- (4) 多様で豊かな人間形成のためにも、自己研鑽や地域活動のためにも、ライフスタイルの見直しが必要ではないのか。

4. 農政について

- (1) 米の直接支払交付金が無くなるが、農家や地域に与える影響を、どうとらえているのか。また、これに代わるものはあるのか。
- (2) 生産基盤の維持には、中山間地事業や多面的機能支払いの交付金が有効と、とらえるが、対象となる農地のうち、取り組みの実態は。
- (3) 取り組まれていない地域の要因(問題)は。

一般質問発言通告要旨

通告者 7番 大石 温 基

1. クニマスについて
クニマスは、普段は深いところに生息していると聞くが、クニマス未来館の水槽で、クニマスにストレスは。水槽の状態、深さ、明るさ、水温、エサは。
2. 道の駅は
どのくらい進んでいるのか。どんな道の駅か。規模は。
3. 請願、陳情、要望書は
どのくらい要望に応えているのか。
何年保存するのか。
現在どのくらいあるのか。
4. 神代中央線、東田鎌川線の完成は
5. 市長の想うこれからの農村は

一般質問発言通告要旨

通告者 13番 小林 幸悦

1. これからの除雪対策について

仙北市の市街地では、流雪溝が整備されているところと、整備が進んでいないところもある。特に道幅が狭く、排雪する場所にも困っている方々にとっては、大変、深刻な状況である。

流雪溝の延伸は、なかなか難しいと思うところから、地下水を利用した融雪方式が効果的と考える。それには、地下水の調査も必要になるが、今後の除雪対策として、整備を検討すべきと思うがいかがか。

2. (仮称)「お祭り会館」建設について

角館祭りのやま行事が、一昨年(2019年)の12月にユネスコの無形文化遺産に登録されたこと等から、お祭り会館の建設に向けた協議が進められていると思うが、今後のスケジュールと、市長はどのような構想をお持ちなのか伺いたい。

3. 花葉館グランドゴルフ場近くにある通称ロッジの整備について

花葉館のグランドゴルフ場利用者が使用している、通称ロッジのトイレは、多くの利用者から不評の声が聞こえてくる。

ロッジのトイレは、簡易水洗式であり、建物も老朽化していることから、管理も思うようにいかないこともあるようだ。年間9,000人程の利用者がいることから、浄化槽を設置したトイレの改修工事を検討できないか伺いたい。

4. 花葉館が運行しているシャトルバスを地域住民が利用できるような協議ができないか

角館の市民バスの運行は、雲沢地区と中川地区で行われている。西長野地区でも、一部の地域では利用できるが、国道46号沿いの方たちは、羽後交通の運行路線と競合できないことから、利用ができない状況にある。

近年高齢者の運転免許返納等で交通弱者が増加し、それに伴い、自転車を利用する高齢者が多くなってきている、との声も聞くようになった。

花葉館では、「シャトルバスに乗せてほしい」と、住民の方からお願いされることがあるが、現行では乗車させることはできないことから、「大変気の毒ではあるが、お断りしている」とのことである。花葉館のシャトルバスを地域住民が利用できるよう、花葉館や関係機関と協議していただきたいがいかがか。

5. 門脇市長の政治姿勢について

平成28年度一般会計決算が不認定となった。これは当初予算等を審査し、可決した議会にも、大きな責任があると考え。不認定の理由は「税金等の滞納額が、増加している」ことであるが、審査の中で、厳しい意見や指摘があり、改善策を示したにもかかわらず、不認定となった背景には、これまで多くの議員から、未収金対策の質問があり、

その都度、改善策を示してきたが、功を奏することなく、ここまで来てしまったことが大きな要因と考える。

不認定という結果を、どうとらえて、市政運営をしていくのか伺いたい。

一般質問発言通告要旨

通告者 4番 門脇民夫

1. 防災について

昨年、7月、8月連続して本市を襲った豪雨災害に関して、9月議会、12月議会において、各議員の方々が多く質問をされています。それが新年度予算にどのように反映され、市民の安心・安全を高めるため施行されるかについて伺います。

(1) 再災害防止対策事業について

これまで、災害の復旧工事は、災害前の現況状態に復旧する工事であったため、再び災害が発生し大きな被害が繰り返されてきました。議会での一般質問に、市長は、災害復旧対策は、従来の現況復旧型から再発生防止強化型に変更すると答弁し、新年度事業として再災害防止対策事業費が計上されおりましたが、その事業内容について伺います。

(2) 流木による被害防止について

九州北部豪雨では、山腹の土砂崩れによる川への流木が橋の橋脚等に止まり、川をせき止め、川の流れを変え、住宅地に濁流が流れ込み、被害を拡大させました。去年の本市の豪雨でも、山腹や護岸の立木が上流の沢に流れ込み、沢の中に倒れている箇所が数多く見られます。今年の豪雨では、西木町小淵野地区を流れる小白川川で流木が、用水路の頭首工に止まり、流れをせき止めたため、川の水が堤防を越え、住宅地に流れ込み、被害を大きくしました。

今後、再び大雨となれば、流れ出てきて、九州北部豪雨や小白川川と同じように、川をせき止め、川の流れを変え、住宅被害が発生する恐れがあります。その防止対策について伺います。

(3) 山林の作業道について

山林の作業道は、木材搬出後、放置されることが多く、豪雨の際、法面が山腹崩落の原因となり、その土砂が土石流の発生原因となっております。その防止対策について伺います。

(4) 防災無線について

田沢湖、西木地区の防災無線は、設置から年数が経過し、故障が多発し、災害時への不安が市民から聞こえます。台風、豪雨の際、風や雨の音があっても、避難指示や避難勧告が市民に周知できる、戸別型デジタル方式に更新するべきではないでしょうか。

2. 健康寿命の延伸策等について

(1) 健康と寿命は自身でつくる時代になったと言われていますが、高齢化が進む仙北市においては、団塊世代の方々が高齢化となった時、介護保険、後期高齢者医療等の財政的圧迫が予想されます。しかし、健康寿命の延伸により、それは緩和できます。

健康寿命は、各種検診率の向上により、もたらされることがデータで示されて

おり、市は昨年の3月、データヘルス計画を作成し、各種検診率を向上させ市民の健康寿命の延伸を図るとしてはいますが、下記各種健康診断の受診率と、その向上策について伺います。

①健診（一般、特定、後期高齢者）

（国保以外の方の特定検診受診率も合せて）

②大腸がん検診

③肺ガン検診

④胃がん検診

⑤乳がん検診

⑥子宮がん検診

⑦肺炎球菌ワクチン接種率

⑧前立腺ガン検診

(2) 健康診断の結果、要精検となった方の病院での受診率、及び保健指導実施率の向上策について伺います。

(3) 平成21年度から、大腸ガン検診研究事業が行われております。

事業の途上ではありますが、検診による大腸ガンの早期発見症例について伺います。

(4) 健康の駅設置について

生涯健康で暮らしたい。これは全ての市民の願いであります。健康を増進させ、健康な体力づくりをする住民のサポートをするため、全国各地の市町村では、各種の健康の駅を設置し、住民の健康づくりを促進して、健康寿命の延伸を図っています。

県内においても、横手市は、トレーニング機器を設置した大規模健康の駅、公民館、コミュニティセンターを中心とした中規模健康の駅、町内会館を活用した小規模健康の駅を市内各地域に設置して、市内全域、各年齢層等市民のニーズに合わせた健康の駅を設置して、市民の健康づくりの促進と健康寿命の延伸を図っています。

本市においても、各町内会の健康推進委員と保健師による、町内会館を活用した健康診断や健康相談による健康の駅公民館、コミュニティセンターを活用した太極拳やエアロビクス等、有酸素運動をスポーツ指導員指導による健康の駅、そして総合型スポーツクラブ員、スポーツ指導員活用による、市内各地域にある体育館を利用した、健康の駅等を設置して、市民の健康づくりの促進と、健康寿命の延伸を図るべきではないでしょうか。

一般質問発言通告要旨

通告者 5番 平岡裕子

1. 老後を安心して暮らすために

(1) 介護保険料について

介護保険制度が実施されて18年目となり、3年ごとに見直されてきた計画が、4月1日から第7期介護保険事業計画に入ります。介護保険料基準額も改訂され200円増額の6,300円になるとのことです。

全国で第1号保険者数は3,390万人、第2号被保険者は4,315万人。約7,700万人の被保険者が保険料を支払い、同時にサービスを利用している人は605万人。被保険者数の7.8%の受給者で、高齢者の17.8%が利用していることとなります。保険料を毎月支払っている被保険者の92%の人たちが、月々相当額を負担することになりますので、保険料が高いと感じざるを得ません。

② 大曲仙北広域（大仙市・仙北市・美郷町）の現状を伺います。

② 平成28年決算において、介護納付金が収入済額の割合が低い。第2号被保険者の介護保険料の減免措置等の対応はないのでしょうか。

(2) 介護予防と日常生活支援総合事業について

昨年4月から、介護予防・日常生活支援総合事業が始まりました。マスコミの報道では、市区町村が手掛ける軽度者向け介護サービスが、約100の自治体で運営難になっていると報道がありました。仙北市の状況についてはいかがでしょうか。

(3) 健康寿命を延ばす取り組みについて

クリオン温泉プールを利用した健康教室をはじめ、仲間が集まって体操教室、文化サークルなど、様々な取り組みがなされている実情にあり、公民館等は有効に活用されています。「体操教室に行っている。ポイントが付いたりすると更に元気づくけどな。」「広報で、楽しそうな催し物が紹介されるけど、交通手段がないのよね。」など話題になります。具体策を伺います。

2. 市財政の安定化と市民生活について

4月から、設置予定の収納推進課（室）は、市財政の安定を図る重要な位置を占めると予想されます。配置される職員の市民への対応が、市の顔、声となります。どのような取り組みをなされるのか伺います。

3. 市内保育園、認定こども園のこれからについて

4月から、角館保育園が幼保連携型認定こども園となる予定です。

市内には、市立保育園3施設、私立認定こども園2施設、市立認定こども園が3施設となります。認定こども園は、いずれも幼保連携型認定こども園です。幼稚園と保育園の機能を併せもった施設となります。就学前教育の場として、しっかりとサポートする役割が、行政に求められると思います。市長の見解を伺います。

社会福祉法人「はなさき仙北」への、市からの職員派遣の期間が、残り1年となりました。「はなさき仙北」の体制、派遣職員のその後の体制等についても伺います。

一般質問発言通告要旨

通告者 9番 黒沢龍己

1. 地元中川地区全域について、今後の水道計画を伺う。
 - (1) 寺沢地区の進捗状況、安久戸地区の計画は。
 - (2) 高屋地区については、水質検査を数回行い、「結果を見て判断する」という話を聞いている。そこで、1月末の検査結果についてと、今後の対応・計画を伺う。
 - (3) 若神子地区、赤平地区についての計画を伺う。
 - (4) 黒沢地区は、肥育団地周辺と地区全体の水道計画を伺う。

2. 今、教育委員会では、小・中学校統合について、学校適正配置研究検討委員会より統合計画が提出された。そこで、中川小学校、桧木内中学校の、今後の流れについて伺う。
 - (1) 統合後、校舎の利活用の考え方について。
 - (2) 中川コミュニティ広場の管理・運営は教育委員会か、農政課なのかを伺う。
(明確に)

3. 農林振興について
 - (1) 現在、市では、葉タバコに取り組んでいる農家に対し、どのような支援を行っているのかを伺う。
 - (2) 対象となる補助の種類は。
 - (3) 対象となる要件は。
 - (4) 補助率について。

一般質問発言通告要旨

通告者 2番 高橋 豪

1. 再災害防止対策事業の取り組みについて

昨年12月定例会における一般質問でも、頻発する豪雨災害等に対する対応について取り上げた。その際、門脇市長は答弁で、災害復旧を現状復旧型から再生防止強化型へと変えることを表明した他、自主防災組織への予算配分も行うとしている。

こうしたことから、本定例会に上程されている、平成30年度一般会計予算には、「再災害防止対策事業」として、1億1,655万円の事業費が盛り込まれたが、安全で安心できる住環境整備については、行政の最大の責務であるため、今後の具体的な取り組みについて、次の点を質問する。

- (1) 豪雨時の内水被害箇所については、過去の調査で、複数箇所がピックアップされているが、これらの箇所における対策の進捗状況を伺う。また、逆に、対策が進んでいない箇所について、その理由、及び今後の対応について伺う。
- (2) 常習的な内水被害箇所については、過去の調査結果を見ると、調査の対象に含まれていない場所も、市内に複数存在すると思われる。そうした箇所も、今年の豪雨では、いつものとおり被災している。市では、今年の豪雨被害を受けた結果、そうした箇所を、どの程度、把握したのか、について伺う。
また、その結果、未だ対応できていない箇所は、どのような部分か、について具体的に尋ねるとともに、平成30年度においては、各被災箇所について、こういった対応が行われるのか、について伺う。
- (3) 平成30年度の予算として、新たに計上されている「再災害防止対策事業費」について、具体的な事業の内容を伺う。
- (4) 前回の質問に対する答弁で、「自主防災組織への予算を配分する」と述べているが、具体的内容について伺う。
- (5) 実際に、市内全ての常習被害箇所の改善については、いつ頃を目標にするのか、について伺う。

2. 秋田駒ヶ岳・秋田焼山の噴火活動への備えについて

本市は、秋田駒ヶ岳及び秋田焼山の2つの活火山を有し、いずれの火山についても、火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山として、その活動の常時観測・監視が気象庁等により行われている。

全国111の活火山のうち、こうした常時観測火山は50あり、本年1月23日には、そのうち、群馬県と長野県にまたがる草津白根山が、予兆なく噴火し、噴石の直撃により、現場付近スキー場において、訓練中の自衛隊員1名が死亡。スキー客も含め11名が負傷する惨事が発生している。

ゴンドラの乗客が撮影した噴火の瞬間映像は、テレビやインターネットを通じ、配信され、その噴火の大きさと、凄まじい勢いで噴石が落下する様子が、生々しく映し出さ

れており、改めて、噴火の恐ろしさを感じる。

また、2014年9月には長野・岐阜県境の御嶽山が噴火し、死者・行方不明者63名という、戦後最大の火山災害が起こったことも記憶に新しい。この御嶽山の噴火を契機に「噴火速報」が導入されたが、実際には、草津白根山の噴火時には発表することができなかった。これは、草津白根山における今回の噴火が、監視カメラ等が多数設置され、従来から警戒されていた箇所ではなく、全く監視していない箇所からの噴火であったためである。当時の噴火レベルも5段階中1であり、改めて火山活動監視の課題が浮き彫りとなっている。

本市においても、2つの活火山のうち、特に、秋田駒ヶ岳は登山客も非常に多く、また、周辺には田沢湖スキー場や温泉地もあり、冬期間も、多くの人々で賑わっているため、前述のような、噴火による事故を未然に防ぐための対策について、今一度、徹底する必要があると考え、次の点について質問する。

- (1) 秋田駒ヶ岳と秋田焼山の、現在の状況や今後の動向について伺う。
- (2) 現在の監視体制と、監視体制強化に対する市の考え方と施策について伺う。
- (3) 仙北市地域防災計画「火山災害対策編」には、噴火時の被害想定や火山防災知識の普及、また、防災訓練計画や避難計画など、多岐にわたって盛り込まれているが、1月の草津白根山の噴火を受け、これら事項の検証と見直しの必要性を問う。

3. 市民と議会の意見交換会から 子育て支援施策について

市議会では、本年1月29日から31日にかけて、市民の皆様との意見交換会を実施している。

今回は、子育て支援を大テーマとして取り上げ、市内3会場で開催したが、3日間とも、大変、貴重な意見を頂戴している。中でも、テーマとして取り上げた子育て支援施策に関する意見の多くは、主に、保育所の待機児童等問題に関連したものが多かったため、過去にも、数多く議論してきた経緯もあるが、改めて、次の点について質問する。

- (1) 意見交換会では「保育所は、絶対に利用できるようにしてほしい」との意見要望が多かった。現在の待機児童の状況と、今後の対策について伺う。
- (2) 「未だに、兄弟、別々の保育所に通っている例もある」との意見も出されているが、こうした事例は、どの程度、発生しているのか。速やかに解消する必要がある、と考えるが、対応について伺う。
- (3) また、「子育てサークルや、子育て支援ボランティア等の充実を求める」声もあった。市としての取り組み状況や、現在、活動中の子育てボランティア団体等への支援策について伺う。
- (4) 保護者の切実な悩みとして、「子供が病気の際に、仕事を、何日も休まなくてはならない」ことが挙げられている。病児保育の実施に向けた取り組みについて伺う。